

新人職員の声



Voice of Senior

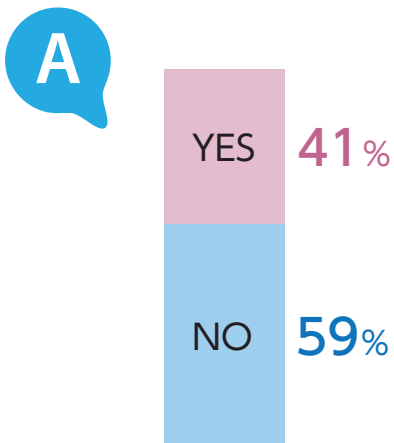
2023 年度入局職員の生の声を聞いてみました！

Q 公正取引委員会を志望した理由は？

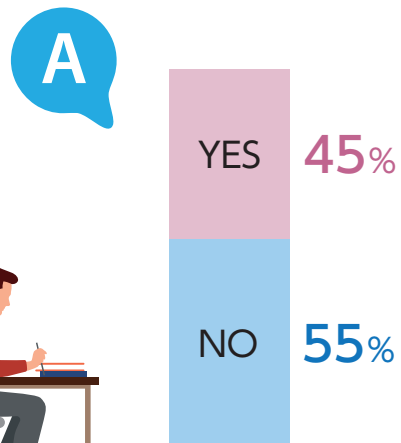
- A
- 政策立案と法執行の両輪という点にひかれたため。
また、一部の事業者のためというよりも、取引環境の整備のためという点も魅力的に感じたため。
 - 公務員の中でも執行官庁として特有の省庁で、立入検査等の経験ができると思ったから。
 - どの部署に配属されても競争政策という軸をもって働けると思ったから。
 - 規模の大きい省庁ではないにも関わらず、競争政策という武器一つであらゆる経済活動のフィールドに立ち向かう姿勢に憧れた。
 - 理念への共感・職員の雰囲気・一本の軸を持ちながら幅広い分野に携われること。
 - 説明会や座談会に参加した際の雰囲気が明るく、こういう職場で働けたらいいなと思った。



Q 学生時代、独占禁止法を学んでいた？



Q 学生時代、経済学を学んでいた？



Q

職場の雰囲気は？

A

- 静かな時もあれば雑談で盛り上がっているときもある。基本的にはアットホーム。
- 各自それぞれの仕事をしているときは静かですが、質問をすれば丁寧に教えてもらえたり、雑談もあつたりと居心地は良い。
- 基本静かで、自分の仕事に集中できる環境ですが、たまに、議論が行われたり、雑談が飛び交ったり、いい雰囲気だと思う。
- 電話での行政相談の時は横で様子を見てくれていて、一緒に考えたり助けたりしてくれる。
- 地方事務所は職員数が少ないため、和気あいあいとした雰囲気。



Q

上司との関係性は？

A

- 私の上司は、頭のキレがよく、コミュニケーション能力も高く、それでいて部下のことを気遣ってくれる憧れの上司だと思う。
- すぐ話やすく、「どのマニュアルを見たら分かるのか」「どういう考え方でこうなるのか」など、分からないことを分かるまで教えてくれる。
- 分からないことは何でも聞いていますが、全部丁寧に教えてもらえる。たまに雑談もする。
- 補佐や管理職に対しても意見を言いやすく、対等に意見を聞いてもらえる。



Q

ランチはどうしている？

A

- 基本的にはお弁当、同期や先輩と地下の食堂等に食べに行くこともある。
- 昼食の時間は、12:00～12:30（なお、昼休憩は12:00～13:00）で済ませている。基本的に、週に3回は、コンビニのおにぎり。週に2回は、同期と法務省地下一階のレストランで550円の大盛りカレーを食べている。（量と値段のバランスが良いため）
- 12時から13時までの1時間。地下のコンビニでご飯を買って、課内で食べることが多い。食べ終わったら昼寝をしている。
- お昼休みは1時間。同期と法務省や農林水産省に食べに行くことが多い。時間休を使って少し遠くに足を延ばす人もいるとかいないとか。



新人職員の声

Q

出勤時の服装は？

A

〈女性〉

- 服装は思ったよりも自由だと思う。
春～夏は、半袖のワンピースやセットアップを着用していることが多い。
ビビッドカラーやモノトーン等の色の服を着て、モチベーションアップにつなげている。
- スボンやスカートにブラウスをあわせて、カジュアルな服装で出勤している。

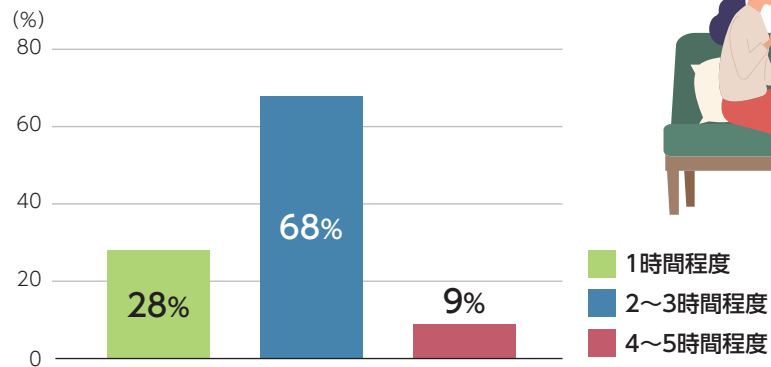
〈男性〉

- 基本はワイシャツにネクタイをして革靴を履いている。
クールビズ期間はポロシャツ、ノーネクタイの格好。
- オフィスカジュアルにスニーカーで出勤している。
ジャケットと革靴をロッカーに置いておき、外部の人等と会うときはきちんとした格好をするようにしている。

Q

平日にどの程度プライベートの時間が作れている？

A



Q

退庁後や休日（プライベート）の過ごし方は？

A

- 映画や野球と趣味に没頭している。学生時代よりも時間が限られているという意識が強くなり、むしろ社会人になってからの休日の方がアクティブになった。
- 近くの公園でバスケをしたり、ラーメン巡りをしている。
関東にあるラーメン店は有名店が多く、まだ開拓の段階。
- 早く退庁できた日は、家の近くのご飯屋さんに行ったり、映画鑑賞したりしている。
休日は、少し遠出して、おいしい物を食べに行ったり、お買い物をしてリフレッシュしている。
- 平日の退庁後は、翌日に備えて早めに寝る。
早めに退庁できた日は、
同期と夕食を近場で取ってから帰ることもある。
休日は、ダンスを習っているのでダンスで
平日の運動不足を解消したり、
学生時代の友人と遊んだりする。
最近では、カフェの開拓にハマっていて、
本を読みながらのんびり過ごすのが好き。



Q

ワークライフバランスの推進のための取組は？

A

- 取組が想像以上に進んでいて驚いた。
夏季休暇を取れない職員はいなかったし、フレックスタイム制度も自分を含め課室内の過半数が利用している。
- 取組が思ったより進んでおり、1年目でもテレワークやフレックスタイム制度を使えることに驚いている。
- 夏季休暇は5日間+土日で合計9日間とることを課内で推奨されたので、その期間を使って海外旅行にも行ける。
課内にもテレワークやフレックスタイム制度を利用している方は多くいる。
- とても充実していると思う。夏季休暇に関わらず、普段から年次休暇の取得について、先輩や上司から積極的に声をかけてもらえるので、とても取得しやすい。
- テレワーク、フレックスタイム制度は浸透している方だと思う。
自分の業務によると思うが、生活にあった働き方ができると思う。



〇。昨年度入局の先輩からのアドバイス & メッセージ

学生時代にやっておくと良いこと

- 自分の好きなことに目一杯時間をさけると思うので、好きなことをやってほしいです。
- 初めて会う人に10分で自分の魅力を120%伝えられることができる面接の練習をしておくことです。
- アルバイトや旅行など、いろいろな経験をすることです。思わぬところで経験が活きたり、人とのつながりのきっかけになることもあると思います。
- たくさん遊ぶこと。
社会人になると、友人と予定を合わせるのが難しくなるので、学生時代にたくさん遊んでください！
- 海外など少し行きにくい場所への旅行。飛行機が欠航になるリスクを気にせず楽しんでください。
- 勉強でも部活動でも旅行でも、自分がやりたいことを思う存分やっておくと良いかと思います。

これから就職活動をする方へ

- もしかしたら就活を前にして憂鬱かもしれませんが、悩んだ分解放されたときの喜びは大きいです。
うまくいったときの自分を想像して頑張ってください！
- 熱意があれば、必ず伝わります！
説明会でいろいろな職員の話をしきことで、公取委のことを好きになってください。
- 筆記などの教養試験、専門試験で合格点を取ることはもちろんのこと、官庁訪問で、この人と働きたいと思わせられるように努力し、内々定を掴み取っていただきたいです。応援しています。
- 業務内容もちろん大切ですが、職場の雰囲気自分が合うかどうか、職場を選ぶに当たって大切なことだと思います。積極的に説明会に参加して、自分に合う職場を見つけていただけたらと思います。
- 限られた期間でやるべきことが多くあり大変かと思いますが、身体を壊してしまっては元も子もありません。
心身ともに万全の状態頑張っててください。
- なるべく多くの説明会に参加してみてください。説明会は社会を知ることができる貴重な機会ですし、そこで得た知見はどの仕事についても役立つと思います。
また、自分のやりたい仕事を明確にするためにもいい機会だと思います。



採用に関する Q&A



Q1 毎年の採用実績はどのようになっていますか？

A 公正取引委員会では、年齢・性別・出身大学・出身学部などにとらわれることなく、採用を行っています。法学部や経済学部出身者が多いのか？との御質問もよくありますが、公正取引委員会職員の出身学部を見ると、法学部、経済学部の順に出身者が多いというデータはあるものの、文学部や理系学部などの出身者、大学院修了者も多数在籍しています。

過去5年の採用実績（〔 〕内は女性の内数）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
総合職	6〔3〕	7〔3〕	6〔2〕	9〔5〕	8〔3〕
一般職(大卒)	12〔7〕	14〔6〕	19〔9〕	13〔7〕	31〔21〕
一般職(高卒)	—	1〔1〕	5〔4〕	4〔3〕	7〔3〕

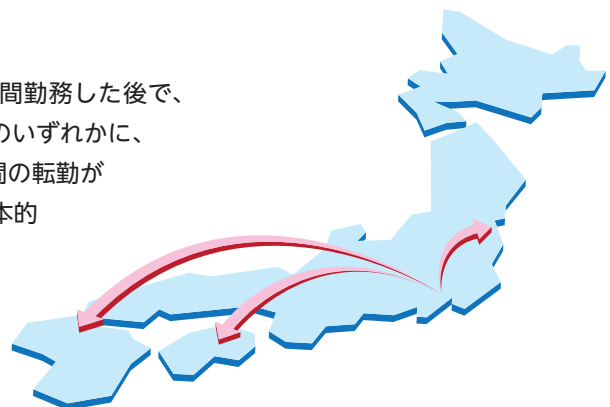
※1「総合職」とは、国家公務員採用総合職試験(院卒者試験、大卒程度試験)をいいます。
※2「一般職(大卒)」とは、国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)をいいます。
※3「一般職(高卒)」とは、国家公務員採用一般職試験(高卒程度試験)をいいます。

Q2 総合職と一般職で業務に違いはありますか？

A 公正取引委員会では、採用区分に関わらず、法執行と政策立案のいずれの業務にも携わります。総合職よりも一般職の方が法執行の業務に携わる機会が多い傾向はありますが、どの職種でも様々な業務を経験することでステップアップしていくことになります。

Q3 地方転勤はありますか？

A 一般職で採用となった場合、入局後一定期間勤務した後で、本局(東京)採用者の場合は地方事務所・支所のいずれかに、地方事務所・支所採用の場合は本局に約2年間の転勤があります。総合職で採用となった場合には基本的に地方転勤はありません。



Q4 どんな人を求めていますか？

A

公正取引委員会が扱う幅広い分野の経済活動について旺盛な知識欲を持って学ぶ姿勢、大企業や中小企業の従業員から一般の消費者まで様々な方と対話できるコミュニケーション能力などの素養、そして何より、公正取引委員会が行う競争政策にともに携わりたいという気持ちを持った方を待っています！

Q5 公正取引委員会の地方事務所で働きたいのですが、採用は行っていますか？

A

一般職（大卒程度）を中心に、各地方事務所等での採用も行っています。詳しくは人事院 Web サイトに掲載される事務所ごとの採用予定者数を確認した上で、各地方事務所等への官庁訪問を行ってください。



官房人事課担当補佐からのメッセージ

公正取引委員会は、今、大きなうねりの中にいます。法執行の分野では、カルテルや談合といった伝統的な事件はもとより、デジタル市場における行為をはじめとする新規性の高い事件にも積極的に対処しています。また、政策立案の領域では、実態調査の実施や他省庁との行政調整を通じた競争環境の整備に加え、最近では、賃上げという政府全体の目標の達成に向けて、労務費の適切な転嫁を実現するための取組等を行っています。社会が引き続き変化していく中で、公取委に対する社会の期待は、一昔前と比較して更に大きくなっていると、強く感じます。

公正かつ自由な競争を守ることは、人間の未来に対する情熱や知性を守り支えることに他なりません。時代の要請に従って、持てるツールを柔軟に活用しながら市場における競争環境を守り、個々の企業が生き生きと創意工夫を発揮できる土台を作るとともに、日本経済の発展に貢献する。力強く、また多様な経済社会の実現に資するため、我々にしかできないこと、我々が取り組むべきことは、数多くあります。

このパンフレットを手にとって我々の業務に関心を持っていただいた皆さん、是非公正取引委員会の業務説明会や座談会に足を運んでみてください。皆さんと議論できることを心待ちにしています。

